

(仮称)海老名市文化交流拠点第1期整備指針について

1 背景

海老名市文化会館、海老名市立中央図書館、海老名市立総合福祉会館といった公共施設が立ち並ぶエリアは、小田急線・相鉄線海老名駅と JR 相模線海老名駅の駅間地区にあり、海老名駅より徒歩5分の場所に位置する。当該地区は「海老名駅駅間地区地区計画(平成 21 年決定・平成 28 年変更)」において、既存文化施設と周辺環境との調和を図りつつ、文化施設等を誘導するC地区(以下「文化ゾーン」という。)と位置付けられている。

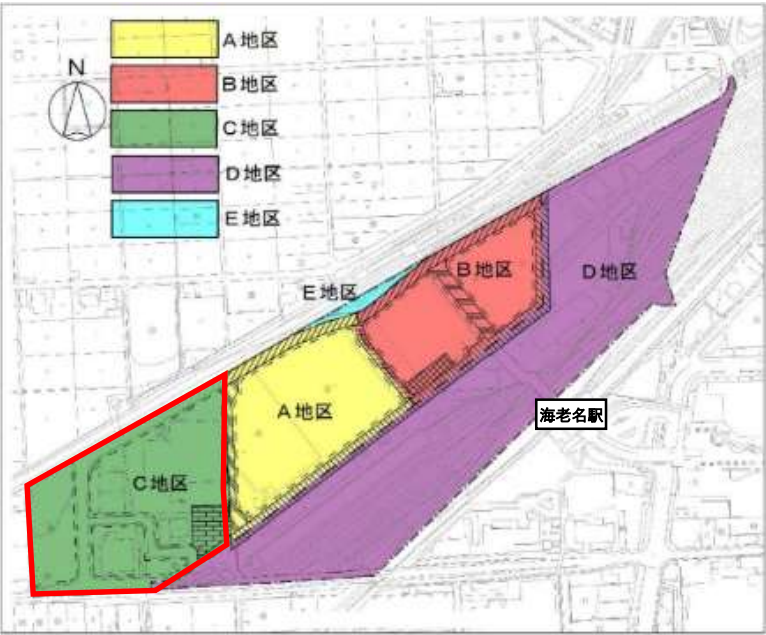


図1 海老名駅駅間地区地区計画方針附図

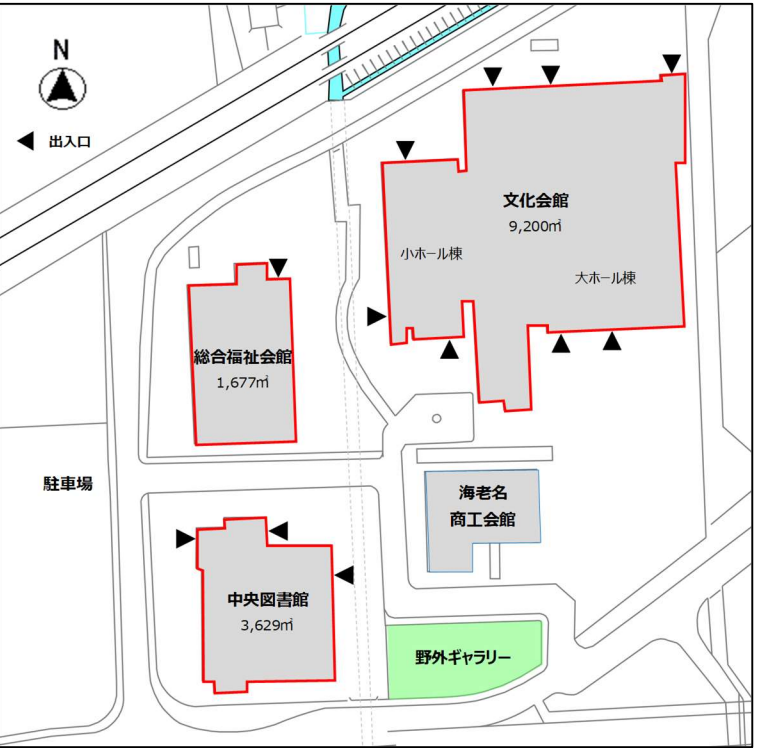


図2 文化ゾーンにおける施設配置

2 基本構想

文化ゾーンを取り巻く状況や課題を整理し、文化発信の拠点エリアとするため、「(仮称)海老名市文化交流拠点整備に向けた調査・研究及び基本構想」(以下「基本構想」という。))を令和3年3月に策定した。

目標

- ①施設単体で考えるのではなく、文化ゾーン全体の価値向上を目指す
- ②空間構成や動線により、新施設と既存施設を有機的に連携させる
- ③来街者に多様な文化に触れる機会を創出する

基本的な考え方

- ①既存3施設の機能を補完するとともに、一体的な活用が図れるものとする
- ②これまでにない新たな価値観を創造する場を設置する
- ③文化ゾーンのシンボルとなるようなオープンスペースを配置

整備方針

- ①既存ストックを有効活用した整備
- ②文化芸術活動の要素として不足している「表現」や「創造」の機能を持つ新施設を整備
- ③様々な活動の「交流」を生み出すとともに、新たな文化を発信していく広場を整備

3 整備時期の2期化

(仮称)海老名市文化交流拠点の整備には時間的な課題があることから、整備時期を2期に分け、短期的な課題は迅速に、長期的な課題は時間をかけて解決方法を見出していく。

早急な整備が必要

廃止の方向の市民ギャラリーと老朽化が進む商工会館の早急な整備が必要

第1期

整備手法の熟考が必要

文化ゾーンの高いポテンシャルを最大限活用するため、整備手法の熟考が必要

第2期

4 第1期整備指針

基本構想を具体化し、施設規模や必要諸室等の設計与件を整理する基本計画の作成に向けて、(仮称)海老名市文化交流拠点第1期整備指針を定める。

課題

市民ギャラリー廃止に伴う文化機能の低下 総合福祉会館の稼働率の低さ 周辺道路の交通量の変化 商工会館の老朽化

市民利用施設の整備・維持管理の方針

既存施設の統廃合、複合化などにより施設面積の削減に取り組み、長期的に見た施設の保有総量を現状より 20%程度抑制

※「海老名市公共施設再編(適正化)計画(令和6年2月改定)」より抜粋

整備指針

機能の集約化

交流の促進

具体的な考え方

市民ギャラリー機能と総合福祉会館機能を移転

野外ギャラリーと商工会館用地に第1期拠点を整備

商工会館移転の必要・市道 1889 号線の線形見直し

市民ギャラリー機能と総合福祉会館機能の集約

商工会館との合築

クランクの解消



図3 整備時期及び敷地